第２回町田市生涯学習審議会会議概要

日　時　　２０２０年８月１９日（水）１４時００分～１６時００分
会　場　　市庁舎　１０－２～１０－５
出席者　　委　員：吉田会長、瓜生副会長、影山委員、渡辺(恒)委員,
仙北屋委員、池野委員、関根委員、小﨑委員、陶山委員
清水委員、喜田委員、井藤委員、徳武委員、渡辺(雅)委員
浜田会長（町田市文化財保護審議会）
事務局：生涯学習部長、生涯学習総務課長、生涯学習総務課担当課長２名、生涯学習総務課係長２名、生涯学習センター長、図書館長、文学館長、その他市職員５名
傍聴者　０名

注釈：会議内容中、浜田会長も委員として表記しています。

＜次第＞

１．今後の町田市立自由民権資料館のあり方について
①取組事業について
②管理運営手法について
２．その他

【会議内容】

１．今後の町田市立自由民権資料館のあり方について

会長：生涯学習施設や歴史資料の一体的な活用について、事務局から資料のご説明をお願いしたい。

① 取組事業について
資料１－１　生涯学習組織の改編歴
事務局：２００７年度まで、生涯学習部には自由民権資料館、図書館、文学館をはじめ、公民館や博物館、ひなた村、大地沢青少年センターなど多くの施設があった。２００８年４月に町田市全体で部の再編成が行われ、生

涯学習課、公民館、図書館のみとなり、市長部局にある文化スポーツ振興部にスポーツ振興課、博物館、国際版画美術館、子ども生活部にひなた村、大地沢青少年センターの施設が移された。２０１２年４月には一部組織改正があり、生涯学習課は生涯学習総務課となり、公民館と市民大学 HATS を併せ生涯学習センターが開館した。また、このとき、博物館が文化振興課の係となっている。その後、鶴川駅前図書館や忠生図書館が開館し、２０１９年６月には、博物館が閉館した。前回会議で、博物館が所蔵していた資料はどうなるのかというご質問があったが、美術工芸品については、芹ヶ谷公園芸術の杜に建設予定の（仮称）国際工芸美術館で管理され、民俗・歴史などの郷土資料は自由民権資料館、土器などの考古資料は生涯学習総務課の文化財係に移管される。さらに、現在、ゆくのき学園や三輪の森ビジターセンターの展示スペースにある民俗資料なども教育委員会へ移管される。資料に記載されている地図は、町田市の地図に生涯学習施設や文化財を示したものである。町田市の文化財はここに記載出来ないほど多く、生涯学習施設も点在しているため、市内の様々な場所で文化財に触れる機会があり、また、活用していけると言える。自由民権資料館については、薬師池公園周辺に民権家の石阪昌孝の墓や民権の鐘など民権運動に関するものが多くあるものの、薬師池公園のパンフレットには自由民権資料館も含めそれらの記載がないなど、周辺施設と連携した PR ができていない。そこをうまく連携できれば、お互いに魅力を高めることができるのではないかと考えている。

資料１－２　町田デジタルミュージアム概念図

事務局：博物館から考古・歴史・民俗資料が教育委員会に移管されるため、それらを一体的に活用する一環としてデジタルミュージアムの構築を進めている。デジタルミュージアムは、町田の歴史をインターネット上でいつでもどこでも無料でご紹介するサイトである。町田市全体で約５０００点ある考古資料のうち５００点、自由民権資料館が主に所蔵している歴史資料１３万点のうち１５０点、現在、博物館が４０００点ほど所蔵している民俗資料のうち１３２８点を閲覧することができるようになる。デジタルミュージアムのトップページを開くと、旧石器時代から昭和までの年表が出てくる。その年表の縄文時代を選択すると町田の縄文時代の説明が表示される。さらに、遺跡の紹介とその遺跡で代表的な土器や石器が２Ｄ又は３Ｄの高精細画像で見ることができる構成を考えている。考古資料と歴史資料については１つの年表で掲載する予定。民俗資料については、時代が多岐に渡るためトップページは「たべる」

「よそおう」「すまう」など生活のシーンに分類しており、古民家や遺跡の内部は 3Dのパノラマビューで見ることができる。また、ＩＣＴを活用した学校教育での活用や、予約制で考古資料室、自由民権資料館、三輪の森ビジターセンターでデジタルミュージアムに掲載されている資料の本物を閲覧できるようにする予定である。学校教育での活用としては、各生徒にタブレットが支給予定であることや大型提示装置が各教室に入る予定であるため、町田の歴史を教える際などに活用していきたいと思っている。デジタルミュージアムは Yahoo や Google などの検索サイトで検索することができる。デジタルミュージアムの大きな特徴は、内容を全てテキスト化しているため全てが検索対象となることである。例えば、日本最大の歴史資料のデジタルアーカイブである国立国会図書館サーチで「縄文土器」と検索するとデジタルミュージアムの中の「縄文土器」という単語も検索することができるというものである。デジタルミュージアム事業は、２０１９年度から２０２１年度の３年間で行い、全面公開は２０２２年度である。事業費は約２６００万円で、このうち５６％が公益財団法人図書館振興財団の助成金となる。事務局からの説明は以上である。

会　長：今までの説明でご質問やご意見はあるか。

委　員：組織が改編され、施設が教育委員会と市長部局に分かれたということだが、自由民権資料館などの教育委員会所管施設と市長部局にある国際版画美術館やひなた村、大地沢青少年センターなどの施設間で、イベントで相互協力するなど物や人の交流はあるのか。

事務局：博物館の歴史関係の展示事業に生涯学習総務課が協力し、共催で実施したことはある。直接、仕事を頼み合うことは少ないが、どのような資料を持っているのかなどの情報交換は行っている。

会　長：再編前は、全ての施設が教育委員会所管だったため、連携が取りやすかったかと思う。施設の所管が分かれても、スムーズな連携はできているのか。

事務局：十分に交流ができているのかというと、まだ足りていない部分はあるが、学芸員間や組織間での意見や情報交換は頻繁に行えていると考えている。

委　員：デジタルミュージアムの事業を担当されているのは、自由民権資料館の職員なのか。

事務局：デジタルミュージアム事業は、生涯学習総務課文化財係が中心となって進めている。

会　長：次に資料２及び資料３について説明していただきたい。

資料２－１　自由民権資料館の取組事業について

事務局：社会的背景と設立の経緯では、自由民権運動とは何かという説明から入り、「自由民権百年」運動、市史編さんの事業の終了を背景に、民権家・村野常右衛門のご子孫に土地を寄贈していただいたことが記載されている。次に、自由民権資料館の使命だが、「自由民権運動の意義を評価し継承する」「町田市域の歴史を残し、伝える」の２つが大きな柱となっている。事業の実績と課題についてだが、まず挙げられる事業は、史料を収集・整理・保管・調査研究し価値に結びつけるというもので、これは、どの博物館でも根幹となる事業である。毎年、新しい史料が入ってきており、史料整理が追い付いていないため、現在は、ボランティアの方にもお願いして整理を進めているところである。展示事業では、常設展のほか、企画展示室で年に３回ほど特別展・企画展を行っている。また、常設展示室のケースの一部を使用し、３ヵ月ごとに内容を変えていく季別展を行っている。特別展や企画展では展示できなかった資料や扱わなかったテーマの資料を紹介できるように始めた展示である。このような展示以外に、２０１９年度は、市庁舎１階のイベントスタジオや忠生図書館のスペースを使用してアウトリーチ展を行った。照明などの環境が史料にとって良くないため、ほとんどはパネル展示になってしまうというデメリットもあるが、多くの方に見ていただける機会を作るため始めたものである。市民協働展は、歴史講座「自由民権カレッジ」で学んだ卒業生が中心となり、講座で執筆された卒業論文のテーマを展示する。このような展示のほか、町田デジタルミュージアムでも、考古・歴史・民俗資料を見ることができる。次に、普及事業では、講座は古文書講座、町田自由民権カレッジ、特別講座がある。古文書講座は、古文書の解読や勉強の仕方を学ぶ講座で、２５年以上継続して実施している人気の講座である。１００人を超える卒業生でお互いに学び合うグループができており、定期的に会場を借りて勉強会を行っている。町田自由民権カレッジは、３年間で終了する長期の講座で、１年目に座学、２年目からはゼミ形式、３年目に卒業論文を書いて卒業となっており、受講者には自由民権資料館との協働事業に協力してもらうことも考え、始めた講座である。そのほか、町田市史が刊行４０年を迎えたことを機に、町田市域の歴史を読み解き直すために始めた特別講座、フィールドワーク「町田の歴史を歩く」がある。自由民権資料館まつりは、開館記念の１１月３日に行っており、近隣の方にもっと自由民権資料館を知ってもらうため始めたものである。次に、図書刊行に関する事業では、定期的に刊行し

ている紀要「自由民権」を始め、「民権ブックス」「町田市史料集」「史料目録」がある。続いて、運営体制だが、自由民権資料館は、１９８６年に開館し、１９９６年に増築している。建築から３０年以上経過しているため、昨年度、大規模改修工事が行われており、今後も定期的なメンテナンスはしていく必要がある。運用形態としては、市の直営であるが、一部、総合管理・警備業務を委託している。生涯学習総務課の１つの係であり、現在は、正規職員３名と会計年度任用職員５名がおり、うち学芸員は４名である。経費は、２０１８年度の決算額でいうと、行政費用が６１，５７１千円、うち施設維持管理のための物件費は９，９０１千円となる。人件費及び建物の減価償却費を除く費用に対する１人当たりのコストを出してみると、１，４６９円であり、近隣の同規模自治体の施設の利用者１人当たりのコストと比較してみると平均値であると言える。また、町田市の生涯学習や文化施設の利用者１人当たりのコストと比較すると、自由民権資料館は７，８４１円で、１人当たりのコストが最も低い市民ホールの９８０円と比較すると大きな差があることが分かる。最後に、認知度・利用者数だが、認知度は、２０１７年度に実施した「町田市生涯学習に関する市民意識調査」によると、自由民権資料館を知っている市民は４５．１％で、そのうち、この１年間で利用したことがある市民は１．８％であった。また、知らないと回答した市民は４０．１％と、認知度は低いと考えられる。利用者数は、２０１３年度までは５，０００～６，０００人程度だったが、２０１３年度に事業仕分けがあり、指摘を踏まえた改善を行った結果、２０１４年度は７，０００人を超え、２０１９年度には、アウトリーチ展を積極的に実施した結果、８，０００人を超える利用者となった。

資料２－２　２０１８年度課別行政評価シート

事務局：課別行政評価シートは、１年間にどのような事業を行い、どれくらいの成果がでたのかを評価したものである。ご覧いただきたいのは、事業の成果の箇所で、自由民権資料館の利用者数と資料整理点数が記載されており、推移が分かるかと思う。こちらの利用者数で行政費用を割り、利用者１人あたりのコストを出したものが、単位あたりコスト分析の箇所である。２０１８年度は７，８４１円であった。

資料３－１　市民からのご意見（２０１９年度来館者アンケート）

資料３－２　市民からのご意見（まちだ自由民権カレッジ同窓会アンケート）

資料３－３　市民からのご意見（認知度アンケート）

事務局：前回審議会の中で、実際に自由民権資料館で活動されている方の声を聴きたいというご意見をいただいたため、まちだ自由民権カレッジ同窓会の方々にアンケートを行った。また、今回、薬師池公園四季彩の杜ウェルカムゲートで、自由民権資料館をあまり利用されていない方への認知度アンケートも行っている。認知度アンケートの結果、自由民権資料館を知っているという方は５９％であったが、そのうち、来館したことがない方は８０％を超える結果となった。その他、自由民権資料館は町田の歴史を扱っていることを知っているかという質問に対し、７７％が知らないと回答していることが特徴的であると考えている。最後に、自由民権資料館に対しどのような印象を持っているか伺ったところ、「固い」「難しそう」「敷居が高い」という声が多くあった。また、施設名を親しみやすいものやわかりやすいものにして欲しいといったご意見があった。事務局からは以上である。

会　長：今までの説明について、ご質問はあるか。

委　員：自由民権運動という歴史的な運動の中に町田の民権家たちが含まれていることは確かだが、自由民権資料館のあり方について議論するにあたり、自由民権運動と町田の民権家たちは、別の意味として捉える必要があると思っている。また、個人的に自由民権運動を大きく取り扱っている施設を調べてみたが、全国的にはほとんど見当たらない。資料に、自由民権運動を専門テーマとする施設は、高知市と三春町にある記念館であると記載があるが、両施設とも記念館という名称のとおり、民権家たちの功績や記録を展示している施設で、研究施設ではない。町田市の自由民権資料館は、記念館と研究施設のどちらを主体としているのか論議する上で押さえておく必要があるのではないか。自由民権運動を、町田の民権家の活動という捉え方も含め、歴史研究を行う使命を持っているのかという点も、今後の自由民権資料館のあり方を考えていく上で、大きなポイントになると考えている。もう１点、そもそも歴史好きでない方は、自由民権資料館に興味を持たない、加えて、歴史の中でもかなり限定されたジャンルの施設であるため、今後、極端に利用者が増加するというのは難しいのではないか。施設について考えるにあたり、利用者数は重要な指標ではあるが、限定されたジャンルの施設であることを考えると、利用者数を上げていくのには限界があるのではないかと感じた。

事務局：高知市と三春町が記念館なのに対し、町田市は意識的に資料館としている。自由民権資料館の学芸員は、歴史の出来事には全て功罪両面があるため、記念館のように称えるという姿勢に特化してしまってはいけないという考えを持ち、自由民権運動から現代にどのような問題提起ができ

るかを常に意識して業務に取組んでいる。自由民権資料館のパンフレットにも、施設名の英文訳にミュージアムではなく、インスティテュートつまり研究所という単語を使用している。限定されたジャンルのため、多くの方の関心を呼ぶのは難しいところではあるが、町田の歴史を扱う施設ということで多くの方に利用していただければと考えている。

会　長：他にご意見はあるか。

委　員：施設の性質上、利用者数を大幅に伸ばすことは難しい。最近の取組としてアウトリーチ展を行ったということだが、多くの方に足を運んでもらうという観点からみると良い取組であると思う。まだ認知されていない方たちに周知することで、利用者の増加を見込めるのではないかと期待している。

会　長：課別評価シートの中に、利用者１人当たりコストの記載があるが、他の委員がおっしゃっているように、利用者数のみで比較を考えたらいけない。研究施設の場合、質の担保も重要で、質をないがしろにするような施設は文化施設に値しない。利用者数だけを取り上げて議論する必要はないが、町田の歴史を扱う施設としての役割もあるため、若年層をはじめとする多様な世代の利用者を獲得できるよう考えていくことが今後の課題である。したがって、市民が来館しやすい展示やキャッチコピーなどの工夫が必要であると思うが、事務局はどのように考えているのか。

事務局：先ほどの認知度アンケートの中にも、難しい施設名である、名前が良くないなどのご意見があるため、真摯に受け止めなければならないと考えている。そこで、事務局からの提案として、審議会委員の皆様に、町田の歴史も扱っている施設であることが分かるようなキャッチコピーや愛称を考えていただきたい。この場ですぐに思い浮かばないと思うので、次回の審議の中で話をさせていただきたいが、いかがか。

委　員：事務局の意見に賛成である。自由民権資料館という施設名は、非常に難しい印象を与える。「町田の歴史を知る自由民権資料館」など分かりやすい印象となれば良い。また、自由民権資料館のある地域は、鶴見川流域の穀倉地帯で経済力のある地域であったことも、自由民権運動の活動家が出たことに若干関係しているのではないか。そういう関連も含めて、町田の歴史が詳しく分かる内容を加えていただければ良い施設になると思う。

会　長：他にご意見はあるか。

委　員：先ほど、必ずしも利用者数の増加だけを考えるものではないというご意見が出ていたが、課別行政評価シートを拝見すると、成果として記載されているものが、事業を行った結果、利用者数が増加したということが

メインになっている印象を受けた。課内や自由民権資料館内で、来館者数以外の成果指標について、議論はされているのか。もし、来館者数以外に成果指標があるのであれば教えていただきたい。

事務局：来館者数の他には満足度についての議論が出ており、指標に加えていければと考えているところだが、満足度を測るための手法としているアンケートがうまくいっていない。先ほどの資料の来館者アンケートにおいても来館者のうち３．４％しかアンケートの回収ができておらず、課題だと思っている。今後、何らかの形で来館者のご意見を伺い、そのご意見を反映させることにより、またご来館いただいたときに満足していただけるよう、指標を考えていきたい。

会　長：町田自由民権カレッジの卒業生や講座受講者の満足度も指標になるのではないか。また、そういった講座受講生が、その後自由民権資料館で活動できる仕組みがあれば、満足度も高くなると思う。他にご意見はあるか。

委　員：高齢者に福祉サービスを提供する事業をしているため、前回会議の後、鶴川地域に住む高齢者に自由民権資料館についての印象を聞いてみたところ、自由民権運動が鶴川地域で行われ、町田市民として誇れることであることは間違いないが、身近なものではなかったという印象を持っているようだった。自由民権資料館は、自由民権運動だけではなく、町田の歴史を広く扱っているため、町田市民へキャッチコピーに関するアンケートを行ってみると、様々な意見が出ると思う。私は、キャッチコピーや愛称を作ることに賛成で、町田市民は、町田の歴史を扱う施設という方が、訪れやすく、身近に感じやすいと思う。長い歴史を持つ施設であるため、直ちに施設名を変えるところまではいかなくても、今後施設名の変更も視野に入れてアンケートを実施してみるのも良いのではないか。

会　長：実際に、文学館は「ことばらんど」という名称が付いたことで、幅が広がった。例えば、民権運動を含めた町田の歴史を扱う施設として、学校での自主活動や自立活動に使用することもできれば、価値ある施設になるのではないかと思う。他にご意見はあるか。

委　員：先日の施設見学に参加できなかったため、本日、中学生の子どもと自由民権資料館に伺った。子どもと話している中で、施設名について学校でもアンケートを行ったらどうかという提案をしたら、全員似たような施設名になると否定的ではあったが、学校でアンケートを行えば、自由民権資料館を知ってもらうことができ、認知度も上げることができるため、この機会に町田市内の小中学生にアンケートを行えば良いと思う。また、

先ほど、事務局からアンケートの回収率についての話があったが、実は、私も本日書いてこなかった。アンケート場所が閲覧室になっており、アンケートを書きづらいように感じた。他の施設をみると、施設の出入口に置いてあるところが多いため、アンケート場所を出入口に移してみれば少し回収率も上がるのではないか。

会　長：これを期に、町田市内の小中学校にアンケートを実施してみればキャッチコピーや新しい考えが出てくるのではないか。同時に、子ども達にとっても学びの機会となると思うので、ぜひ、学校にもご協力いただきたい。続いて、資料の説明に移りたい。

事務局：事務局より提案だが、本日は文化財保護審議会会長にもご出席いただいているため、資料４までの説明とし、あとの時間を意見交換に変更したいと考えているが、いかがか。資料５－１から５－３の管理運営手法についての説明は、次回の審議会で行いたい。

会　長：では、資料５－１から５－３は次回会議での説明とし、資料４について事務局よりご説明をお願いしたい。

資料４　今後の生涯学習施策の進め方について

事務局：こちらの資料は、第３期生涯学習審議会に諮問し、いただいた答申で、生涯学習施設全体のあり方検討の基本的な考え方を示したものである。この答申をベースに、２０１８年度に文学館と図書館、２０１９年度に生涯学習センターについて検討を進めてきた。今回の自由民権資料館についても、この答申内容を踏まえたうえで、議論をお願いしたいと考えている。答申全体は、町田市の生涯学習を取り巻く環境、施策を検討するうえでの基本的な考え方、今後重点的に取り組むべき生涯学習施策の３部構成となっている。今回は、今後重点的に取り組むべき生涯学習施策の中から、自由民権資料館に触れられている部分をご紹介する。４つ挙げられているうちの３つ目である一人ひとりの学習成果が地域で生かされる社会づくりという部分で、市内の各地域で、地域の課題解決に向けて、地区協議会や NPO 法人、ボランティアなどの活動が広がりを見せているとあるが、取組状況に地域差があり十分ではない。多様な知識や技能を持つ人材が学んだことを地域に還元していくための仕組みづくりや、学びを核として団体間を結び付けるような機会を提供していくことが必要である。すでに取組んでいる事例として、まちだサポーターズを対象に町田の歴史講座を定期的に実施するというものが挙げられている。まちだサポーターズとは、２０１３年度に開催された「スポーツ祭東京都２０１３」町田市開催競技会において、大会をサポートす

るために公募で集まったボランティア団体のことで、大会終了後も継続してボランティア活動を行っていただいている。そうしたボランティア団体が、地域で活動する際、知識や技能を習得することで、幅広く活用できるように自由民権資料館では歴史講座を実施している。今後も、自由民権資料館ならではの取組で学習の成果が、地域の社会づくりに寄与していくことが求められている。続いて、４つ目の地域文化の創造・継承の部分では、町田市に、自由民権資料館を含め個性豊かな文化施設があり、縄文時代の遺跡や古民家の良質な文化資源が豊富にあることをまちの特色として挙げている。一方で、公共サービスの効率化や公共施設再編などが進んでいくと自治体独自の特色が薄れていくことが懸念されているため、地域の歴史や文化を大切にしていくことでこれまで受け継がれてきたまちの独自性を守り、学びを通じて後世に伝えていくことが求められている。さらに、地域の魅力を高め地域住民の誇りや愛着につなげていくことが必要である。その取組の方向性として、４つご提案いただいている。まず、１つ目は、子どもたちに地域への愛着を育んでもらえるよう、施設の外に積極的に出向き学習機会を提供したり、イラストや漫画、キャラクターなどの理解しやすい手法を用いることで子どもたちが親しみを持てるよう工夫すること。次に、２つ目は、町田市の文化資源をまちの独自性や魅力として捉え直し、観光、商業、スポーツ振興などと連携したイベントを実施して、市民がまちへの愛着や誇りを持つきっかけとすること。３つ目は、新たな地域文化の創造の担い手となる若年層に目を向けてもらえるよう、興味を持つような企業や商業地域との連携・タイアップなどを進めること。４つ目は、市の文化資源を市内だけでなく市外にも積極的に発信するため、同種施設やその施設がある自治体と連携し、戦略的な情報発信を行うことである。自由民権資料館の周辺地域の環境や関連する歴史資源などは、この答申が出されてから３年が経過しており、変わってきている部分も多くある。薬師池公園四季彩の杜のウェルカムゲートが整備されたことや博物館の閉館に伴う郷土資料の移管、町田デジタルミュージアムの構築などもその一例である。検討を進めるにあたり、そうした新しく加わった資源も含めて一体的にご検討していただく必要があるかと思う。委員の皆様には、この答申を念頭に置きながらも、新たな視点や発想でご意見をいただきたい。事務局からは以上である。

＜意見交換＞

会　長：この答申は３年前に出したものではあるが、大きな方向性としては今も

変わらないと思っている。それでは、これらの資料を踏まえた上で、さっそく文化財保護審議会会長からご意見を頂ければと思う。本日は文化財保護審議会からの代表という立場でご出席いただいてはいるが、個人としては、学芸員時代に培われたご経験も大いにおありかと思う。そうした様々な視点からご意見を頂ければありがたい。

委　員：本日参加するにあたって、前回会議の議事録と会議資料すべてに目を通させていただいた。本日の論議を聞いていてもそうだが、非常に前向きなご意見を数多く頂けていると感じている。近年、博物館は採算性を求められることが多いのが現状だが、そうしたコスト面からのご意見ではなく、市民がどのように学習していくか、そしてどのように満足していただくか、という視点でご意見が出ていることは非常に有難いことである。今後もぜひこのままの方向性で、引き続き検討をお願いできればと考えている。また、町田市の文化行政の組織は実に風変わりだと前々から感じていたのだが、自由民権資料館や国際版画美術館といった、他市ではどこも手につけていないような分野を担ってきている点が非常に特徴的である。それらの施設がこれまで上手くまとまってきたのは、ベースとなる町田市立博物館があり、その上で博物館・美術館施設があったからだろうと分析しているのだが、昨年度、町田市立博物館が閉館してしまった。そのため、今後は町田市立博物館の後継として、歴史研究・歴史学習の新たな場としての博物館が将来的に必要になってくると考えている。この自由民権資料館や、国際版画美術館が再編されて誕生する「芹ヶ谷公園“芸術の杜”」が候補となってくると思うので、そうした部分を含めたあり方の検討が必要である。それから、個人的には自由民権資料館の法的な位置づけも気になっているところである。閉館した町田市立博物館は登録博物館であったと記憶しているが、自由民権資料館と国際版画美術館はともに博物館類似施設となっており、法からは離れた位置づけとなっている。先ほど自由民権資料館の学芸員さんからもご説明があったが、あえて資料館という名称で、歴史の研究や保管に軸足を置いているといった話があった。生涯学習審議会において多くのご意見が出ている教育という視点を踏まえると、将来的には登録博物館あるいは博物館相当施設としての認定を受けるということも見据えて、再構築していかなければならないと考えている。どちらかの位置づけになれば、活動のための文化庁からの補助金も受けやすくなる可能性が高いので、将来的な財政状況を見据えて検討していく必要がある。それから、資料２－２の行政評価シートにおいて、自由民権資料館における利用者１人あたりのコストが人件費含め７８００円とあり、市民の方々が見た

らさぞや驚くことだろうと思った。しかし、実は博物館業界においては当たり前の数字であるというのをここで申し上げておきたい。私が勤務していた相模原市立博物館も、人件費を除き三千数百円かかっており、年間百数十万人が訪れる江戸東京博物館でさえ、やはり三千円を超えている。民間運営の美術館や水族館などで入館料が二千～三千円代で設定されていることが多いのは、それくらいの金額帯で設定しなければコストに見合わないからである。ただ、そうした学習施設に入館するたびに三千円も支払っていたら、人々は学習できなくなってしまう。だからこそ、博物館は公立でつくりなさいということを国が博物館法で謳っているのである。以上を踏まえ、自由民権資料館を公立で所管していることの意味を考えていただき、できれば入館料無料のままで、誰もが自由に学習できる、あるいは資料の閲覧ができるという体制をこれからも整備していっていただくのが望ましいと考えている。

会　長：今お話しいただいたことも踏まえながら、生涯学習審議会において検討を進めていく考えである。まだまだ思いは尽きないと思うが、ここからは委員のみなさまにもぜひご意見を頂きたい。

委　員：施設視察で自由民権資料館に初めてお伺いしたが、日本の民主化の一歩を感じ取ることができ、とても感動した。これからの時代、英語を学び世界へ羽ばたいていく子どもたちも多いと思うが、民主主義や人権について学ぶ機会が本当はもっと必要ではないかと思う。子どもたちにも分かり易いように、例えばワールドワイドに世界との比較をしたりなど、今の生活と重ね合わせて考えられるようにすることで、身近に感じてもらえると良いと思う。

会　長：ワールドワイドという視点でご意見を頂いたが、多言語化やデジタル化の方向性というのは、どの分野でも今後は不可欠になってくる。自由民権資料館が今どこまで出来ているのか分からないが、日本は全体的に遅れているので、世界に発信できるような枠組みを整えていく必要がある。

委　員：私も先日、初めて自由民権資料館にお伺いしたが、とくに自由民権カレッジが素晴らしいと感じた。こうした場所で学んだ人が、新たな学びたい人を呼んできたり、さらには子どもたちに教えたりと、つながって人が人を呼んでくるようなしくみづくりを進めていけると良い。また、このカレッジに参加している８０％の方は男性だとお聞きしたのだが、一般的には女性と比べ、男性は地域に関わっていくことが難しいとされているので、そこも非常に良い点であると思う。

委　員：来館者数が増えているのはすごく良いことだと思っており、とくにアウトリーチ展示を実施しているのも素晴らしい。私の周りでも、自由民権

資料館を知ってはいるものの行ったことはないという人たちがたくさんいて、理由としては、駐車場の問題や、バスの本数が少ないといったことが挙げられる。そこで、例えば隣接しているゼルビアキッチンとコラボして、食事やお茶をした人は広い駐車場が使用できる等の特典を検討していただけると、お互いにメリットがあるのではないだろうか。それから、日頃から学校支援ボランティアコーディネーターとして市内外の小・中学校に足を運んでいると、先生方から「町田市域の歴史について教えたいのだが、どこに行けばいちばん資料がそろっていてオススメか」と聞かれることがある。これがいつも頭を悩ませるところで、自由民権資料館の展示内容は、小学生には非常に難しく、中学生でさえ理解はできるもののギリギリといったところである。そのため、さきほど施設名称をもっと分かり易いものに変えるという案も出ていたが、この機会にぜひ、こどもたちが町田の歴史について分かり易く学べる展示コーナーを新たに作っていただけたら嬉しい。それから、資料収集については市のホームページや広報紙を中心に周知しているとお話があったが、例えば各地域の町内会・自治会に積極的に声かけをしてみてはどうか。古い資料がある場合は廃棄するのではなく、町田市のために寄贈し、地域貢献していただきたいという内容を会則に入れてもらえれば、資料収集をより促進できるのではないだろうか。また、市内の小・中学校へチラシを配布することも有効である。地域の町内会や学校の周年行事などで記念誌を作成する場合、地域の歴史を調べる作業が入ってくるため、保護者が歴史資料の情報を持っているということも大いにあり得ると思う。資料収集を促進するための１つの手段として、ぜひご検討いただきたい。

委　員：自由民権資料館のターゲット層を明確にする必要があると思う。生涯学習というと対象は全世代ということにはなってしまうのだが、今の自由民権資料館の展示内容は４０代以上、とくに高齢者の方向けではないかと感じる。ここに小・中学生を連れて行ったとしても、こどもたちはつまらないだろうと思う。展示の説明文が難しすぎるので、子どもにも施設を利用してもらうことを考えるのであれば、もう少し易しい説明文を用意しなければならない。前回お話ししたとおり、中学校の教科書に掲載されている自由民権資料館所蔵の歴史資料は、興味をもってもらう上で１つの入り口としやすいと思う。ぜひ教科書を一度見ていただき、その内容にあったコーナーをつくってもらえると、中学生は非常に興味が湧くと思うし、かつ先生方も社会科の教材として使いやすいと思う。それから、現代のこどもたちにとって興味を引きやすいのは映像であるの

で、展示の目玉としてシアターをつくったらどうか。こんなことを言ったら怒られるかもしれないが、例えば閲覧室などの一部の部屋をシアターにし、町田の歴史について語るようにする。施設視察で収蔵庫を見学させていただいたときに、貴重な歴史資料がたくさん保管されており、実際に展示されているのはごく一部であるということがよくわかった。全く活用されない資料が数多く眠っているのは非常にもったいないので、常設でなくとも、例えば１日上映会を開くだけでも大いに宣伝効果があると思う。ここに来れば町田の歴史が一体的に学べるのだということを知ってもらう良い機会になるので、そうした知ってもらう工夫をどんどん考えていかなければならない。今お話しさせていただいた点を改善すれば、子どもたちへの教育施設としても十分通用するのではないかと思う。

会　長：オンラインの向こう側にいると、別の発想が生まれてくるのかもしれない。動画で歴史を伝えるというのは非常に良い考えである。対象が大人であれ子どもであれ、非常に分かり易いコンテンツであると言えるので、何か動画や画像、ＤＶＤなどのデジタル化の検討を進められるとよい。

委　員：私は立場上、生涯学習施設と子どもたちとの関わりという視点でいつも発言しているのだが、前回の会議で、自由民権運動が町田市で盛んであったということを中学校の社会科で子どもたちに伝えているという発言があったのだが、小学校では、残念ながらあまり伝えられていない現状があると感じた。というのも、小学校では「わたしたちの町田」という社会科の副読本を使っているのだが、自由民権運動が自分たちのまちの自慢となるような運動であったことや、そもそも運動自体について、この中ではあまり取り扱われていないのである。そのため、子どもたちに簡単に自由民権運動を伝えられるよう、リーフレットのようなものがあると良いのではと思う。まちだの自慢というかたちで伝えられれば、小・中学校の社会科や総合学習の教材として、広く使用できるのではないだろうか。

会　長：子どもたちに分かり易く歴史を伝えられるような工夫は、今後必要であるといえる。新たな資源であるデジタルミュージアムも活用しながら、文学館などほかの生涯学習施設とも連携・タイアップをしていけると良い。

委　員：同じ生涯学習施設の連携という視点でお話しさせていただく。先日、中央図書館へ行く用事があったので、町田の歴史の本が置いてある３階の歴史コーナーへ足を運んだ。さぞかし自由民権運動の本がたくさん置いてあるのだろうと思ったのだが、何冊か本が置いてあるだけで目立たず、

とくに自由民権資料館のＰＲなどもなかったのが非常に残念であった。例えば、自由民権資料館の紹介と、ここに行けばもっと詳しい資料がたくさんあるよ、ということがアピールできると良いのではないか。せっかくの同じ生涯学習施設であるので、もっと意識してリンクさせていくことが必要である。それから、そこでたまたま手に取った本で初めて知ったのだが、戦時中、鶴川に農村図書館を開いた「浪江　虔」という方がいたそうである。戦争が激化していく中で、本をとおして人々の文化活動を守ろうとしたことは本当に素晴らしく、現代の平和がいかに大切なものかというのを多くの人たちに感じてほしいと思った。すでに白洲正子さんなどはとても有名だが、この浪江さんのように、今の町田につながる素晴らしい活動をした人たちがまだまだたくさんいるのだと思う。そうした人たちのストーリーを発信していくのは、まちだの歴史に興味を持ってもらう入口としてはとても良いのではないだろうか。人の顔が見えて、その人の人生にいきいきと迫ってくるようなストーリーというのは、身近で共感しやすく、関心を持ってもらいやすいと思う。発信方法も垣根を低くするために、例えばまちだサポーターズの方々に劇をしていただいたり、若い人向けには YouTube に載せたり漫画化するなどの工夫が必要である。

委　員：今お話しいただいた浪江先生については、自由民権資料館に資料がたくさんあるほか、農村図書館の建物も実際に残っている。ストーリーの発信と絡めて、見学コースをつくると面白いのではないだろうか。それから、学校教育との連携というところで言うと、「歴女」という言葉が少し前に流行り浸透していったが、中学生の中にも歴史好きの子たちはきっといるはずである。今までの利用者に引き続き利用していただくことはもちろん、子どもたちにもっと利用してほしいということであれば、子どもを対象とした民権カレッジを実施すると良いのではないだろうか。自由民権資料館の利用者は高齢者が多いとお伺いしたが、平日の日中は学校があるため、自然と参加できる人が高齢者に偏っていくのは当然である。子どもが通いやすいよう休日に実施すれば、必ず来てくれる子がいると思う。たくさんの子どもたちに来てもらう必要はなく、一人でも二人でも来てくれて、その子たちが歴史好きの大人に育ってくれるだけでも非常に価値のあることではないかと思う。それから、子どもたちだけでなく、働いている世代や高齢者といった大人も、町田の歴史を知らずに住んでいる人たちは大勢いると思う。町田で生まれ育ったわけでなければ、なかなかまちの歴史を学ぶきっかけがないのが現状である。そこで、親子で参加できるような取組を実施すると良いのではないだろう

かと思う。大人に連れていってもらわなければ、子どもが小さければ小さいほど自ら足を運ぶということはまず考えられないので、親子で一緒に来て楽しんでもらえるような取組を今後打ち出していくことが必要である。最後に、行政評価シートにある利用者一人あたりのコストが高いというのは、非常に素晴らしいことなのだと思う。採算をとることが難しくても、少しの人に対して多くのお金をかけられるというのは、やはり公立で運営することの力を大いに感じる。私は図書館協議会から出席しているのだが、図書購入費が１０年前の約３分の１まで減ってしまっており、利用者数や貸出冊数が右肩下がりに推移し続けているのが現状である。一人あたりのコストを下げなければならないという視点で考えていってしまうと、同じような状況になりかねない。真に大切な事業は疎かにせず、しっかりと継続してもらうことで、今までの利用者の期待を裏切ることのないように、また、新しい利用者にがっかりされないようにしてもらいたい。

会　長：今お話しいただいたように、一人あたりのコストが高いということは、裏を返せば市としてその施設を大事にしていることの現れでもある。そのため、一人あたりのコストを下げればいいという議論だけは避けなければならない。クオリティや満足度の問題、今後の将来性などを踏まえて、引き続き慎重に検討を進める必要がある。さて、次回会議では、本日時間の都合上カットせざるを得なかった管理運営手法を中心に議論する予定である。すでに資料は配布されているので、各自ぜひ目を通した上で臨んでもらいたい。最後に、文化財保護審議会会長からぜひお話をいただきたい。

委　員：冒頭の話に追加して、２点ほどお話しさせていただきたい。１つ目は、デジタルミュージアムについてである。今年はコロナウイルスの影響で全国的に博物館が閉館となっているところだが、自宅で博物館資料が閲覧できるというのは大変すばらしい制度であり、今後もぜひ続けていただきたいと考えている。ただし、リアルミュージアムの展示あってのデジタルミュージアムだと思うので、本末転倒にならないようその位置づけには注意していただきたい。町田市の所蔵資料点数をお伺いしたところ、考古資料はコンテナ１万２０００箱分で約２３万点、古文書は１３万点で相模原市立博物館の倍以上の量であり、実に膨大な量を所蔵されている。この資料点数を考えると、文化財係と自由民権資料館だけで資料を管理し、市民に公開していくのには限界があると感じる。将来的には、相模原市立博物館を凌ぐような博物館施設が必要ではないかと考えている。それから２つ目は、管理運営手法についてである。とくに私を

含め文化財保護審議会で気にかけているのは、指定管理者の導入についてである。現在、全国で二十数パーセントの博物館が指定管理者を導入しているが、施設管理部門のみの導入がほとんどで、学芸部門は直営で残している施設が圧倒的に多いという点でまだ救いがあると感じている。というのも、学芸員まで指定管理者制度職員にしてしまうと、最大で任期が５年のため、専門性が担保できなくなる可能性がある。さらには、学芸員と地域住民との信頼関係は数年で築けるものではないため、施設と地域の良好な関係性をどう維持し続けるかが課題となってしまう。私自身、２０年働いた現場を退いてからすでに１８年が経つが、当時関わりのあった地域の方から、今でも講座の依頼や歴史に関する相談が入ってくるものである。それが必ずしも良いというつもりはないが、自由民権資料館においても、今の学芸員さんがいるからこそ、あれだけ多くの人たちが集まり、活発に学習会を開いているのだと思う。それを踏まえると、学芸員さんが専門職として安心して働けるというのが何より重要なことであると思うので、今したような話も念頭に置きながら、次回以降も引き続き検討をお願いできればと考えている。

会　長：自由民権資料館のあり方について検討を進める上では、ぜひ文化財保護審議会の方にもご意見をお伺いしたいと考え、無理を言って急遽ご出席いただいた。会長として感謝を申し上げたい。お話しいただいたことを踏まえ、管理運営手法を含めた今後のあり方について、次回以降もしっかりと議論を深めていく考えである。本日は初の試みとして、一部の委員にオンラインでご参加いただいた。途中、オンラインの調子が悪いといった声もあったが、それはネットワーク環境やシステム上の課題であると思う。次回は、よりスムーズに出席していただけたらと思うので、事務局には改めて準備をお願いしたい。

２．その他

事務局：会議前の時間に会長・副会長ともお話しさせていただいたのだが、生涯学習分野では、オンライン型の学びが今後さらに増えていくと考えている。そこで、委員の皆さまにはお一人につき１回はぜひオンラインでの審議会参加に挑戦してみていただきたいと考えている。自宅が遠方の方を除き、基本的には本日この場にお集まりいただいた方の中から、次回のオンライン参加者を決めたいと考えている。どなたにお願いするかは、また改めてご連絡させていただきたい。また、本日の会議資料は、次回第３回審議会でも引き続き使用するため、各自お手元に保管しておくよ

うお願いしたい。なお、次回会議に向けた追加資料は答申の骨子案のみで、９月１１日を目安に事前送付を予定しているのでご承知おきいただきたい。併せて、会議の中でご提案させていただいた自由民権資料館のキャッチコピーや愛称についても、メールで改めて依頼させていただく。中学生から意見募集したらどうかといったご意見も頂いたが、まずは委員の皆さまからお伺いしたいと考えているので、思いついたものがあればぜひご意見を寄せていただきたい。最後に、次回会議は９月１６日水曜日開催で、場所は２階の市民協働おうえんルームで行いたいと考えている。メールでご案内させていただくので、そちらもご確認をお願したい。

会　長：それでは、ちょうど定刻となったので第２回町田市生涯学習審議会を閉会としたい。オンラインの方も含め、皆さまには円滑な議事進行にご協力いただき感謝申し上げる。